

扶桑武俠傳 演出者用台本記録帳

シナリオ名

至高の花嫁

「脇役」「外道」キャラクター・シート

名前:	高雲鹿(こううんろく)	
口癖:	「恩を仇で返す者が英雄好漢と言えるか。」	
	【雷(武力)】14	1【風(機敏)】
陽	【沢(魅力)】8	7【山(自我)】陰
	【火(知力)】1	14【水(感覚)】
生き様	(花) / 忠誠	
功夫	【雷(武力)】<白虎旋風棍3>	
武器	鉄棍[殺傷値8]	
命力	18 / 5 D	
特殊攻撃	白虎羅漢功奥義 天雷功	
使用回数:	2	活劇段階: 第四段階
対象:	自身	
効果:	【命力】を10回復する。	

名前:		
口癖:		
	【雷(武力)】	【風(機敏)】
陽	【沢(魅力)】	【山(自我)】陰
	【火(知力)】	【水(感覚)】
生き様		
功夫		
武器		
命力	/ D	
特殊攻撃		
使用回数:		活劇段階:
対象:		
効果:		

名前:		
口癖:		
	【雷(武力)】	【風(機敏)】
陽	【沢(魅力)】	【山(自我)】陰
	【火(知力)】	【水(感覚)】
生き様		
功夫		
武器		
命力	/ D	
特殊攻撃		
使用回数:		活劇段階:
対象:		
効果:		

名前:		
口癖:		
	【雷(武力)】	【風(機敏)】
陽	【沢(魅力)】	【山(自我)】陰
	【火(知力)】	【水(感覚)】
生き様		
功夫		
武器		
命力	/ D	
特殊攻撃		
使用回数:		活劇段階:
対象:		
効果:		

「賊徒」キャラクター・シート

名称: 客棧の私兵
「主の命により、死んでもらおう。」

【賊徒人数】:	20人	【賊徒レベル】:	2
【賊徒命力】:	60	【殲滅値】:	30
	陰()	陽()	
1~3	零段階活劇	一段階活劇	
4~10	一段階活劇	二段階活劇	
11~13	二段階活劇	三段階活劇	

名称: 武俠たち
「で、どっちが悪い?」

【賊徒人数】:	5人	【賊徒レベル】:	3
【賊徒命力】:	50	【殲滅値】:	45
	陰()	陽()	
1~3	一段階活劇	二段階活劇	
4~10	二段階活劇	三段階活劇	
11~13	三段階活劇	四段階活劇	

シナリオのテーマ

「偽りの結婚式」
手段を選ばぬものに正義はない。

シナリオの舞台

舞台その1 情景・設定
PC1, PC2:それぞれの師匠の下
PC3:どこか暗いところ
PC4:街道

舞台その2 情景・設定
豪華な屋敷。

舞台その3 情景・設定

舞台その4 情景・設定

シナリオの設計図

第一幕 PCの登場・状況設定

PC1:師より、西朝皇帝・趙扶花の搜索を命じられる。
PC2:兄弟子からの結婚式に、体の不自由な師に変わって出るように命じられる。
PC3:外道の搜索・抹殺を依頼される。
PC4:皇甫楽観に絡まれる。

開幕(始まりの情景)～ 出発への扉

武侠達の思惑、理由はまちまちだった、だが、何かに導かれるように出会ってしまう。
それは鈴鹿関から南、東龍街道から少し離れた亀山(きざん)の地。

第二幕 冒険

亀山の地は、古代玄武派に縁があるらしい。

袁蒼医は、元は凶門派の外道で、袁蒼峰という名だったが、西門銀沙の外道抹殺を恐れ、名を変えて天蒼派に弟子入りした。
趙扶花はいつものようにお忍びで江湖をうろついていたところ、生死を彷徨うような事故に遭い、そこを蒼医に助けられるが、扶花が皇帝であることに気づいた蒼医は、そのまま騙しこんで祝言を挙げる約束をさせてしまう。

扶花は式まで部屋に閉じ込められるが、なんとかこの窮地から脱出しようと、侍女を説得し現れた武侠へ助けを求めるが、侍女が見つかってしまう。

高雲鹿はまっとうな武侠であるが、蒼医に恩があり、ほぼ絶対の忠誠を誓っている(もちろんそれは蒼医の策略である)。

皇甫楽観はこの事実をほぼ掴んでいるが、自分の出る幕ではないとして、PC4に解決を委ねるべく絡んでいる、助力を求められれば事件の真相を伝え、蒼医を倒す事を促す。

事件その1 絆(第二幕開始後30分以内)

亀山の地でも最大の「玄武客棧」では結婚式の準備で人々がせわしなく動いている。
客棧では白虎派武侠・高雲鹿が案内してくれる。

「宿敵」の影(第二幕開始後30分前後)

PC2の兄弟子、客棧の主でもある武侠・袁蒼医は常にいらした様子。
噂ではどうも花嫁が乗り気ではないらしいのに無理矢理結婚しようとしているようだ。

事件その2 死(第二幕開始後40～50分)

花嫁から武侠へ言伝があり、深夜に落ち合う。
だが、待ち合わせ場所へ行くと、伝言してきた侍女が殺されている。
そして花嫁が西朝皇帝・趙扶花その人である事が分かる。

解決への扉

真実を掴んだ武侠達は兵隊に囲まれ、窮地に追い込まれる。
そして悪辣な罠により、兵隊ごと地下牢に落とされる。

第三幕 決戦と解決

袁蒼医は凶門派と天蒼派の絶技を究め、その両方を活かすべく、伝説の技・左右互縛の技で同時に天蒼点穴指、凶門毒手などを繰り出し、二人まで一度に攻撃できる。

蒼医は元々成望寧にただならぬ恨みがあり、以前から趙扶花を利用して望寧を倒す計画を企てていたが、数日共にした扶花に対して道具以上の思いが芽生えている。

「宿敵」の登場・決戦

なんとか抜け出すが、祝言の刻限が迫る、どんな理由があろうと式が終わってしまえばそれを覆すことは出来ない。
華やかな式場で、外道・袁蒼医と武侠・高雲鹿との決戦が始まる。

解決とエピローグ

外道は死す、だがそこにいつか生まれた真実の愛と、成望寧の陰謀に、武侠は向き合う事が出来るのか。